

C-1 江戸時代の調度

一廊調度について一

青葉学園短大 浅見 雅子

1. 江戸時代の調度を大別すると、貴族調度、大名調度、庶民調度に分けられる。更に、特殊なものとして、廊調度と歌舞伎調度がある。今まで庶民調度を中心として研究してきたが、時代考証の正しい実物を探すことは殆んどできなかった。それで今回は、京都の「角屋」に現存する調度が、時代考証が正確であり、使用目的もはっきりしているところから形態を考察する。

2. 「角屋」に伝わる各種の調度の形態と、それらの調度が置かれた部屋との関係を調べ、当時の小説、特に西鶴の作品と、数多く残されている随筆を文献として検討した。

3. 江戸時代の遊廓は、貴族、大名、富裕な町人の遊び場であった。大金を投じての遊興であるため、部屋や調度類は豪華を極めた。「角屋」にあっては、「扇の間」は、襖の引手、欄間窓などすべて扇面形に作られ、そこに使われた灯台も扇形である。このように部屋全体を統一したデザインにする配慮がみられる。また、「青貝の間」における装飾の中国の影響は、火鉢とか椅子の調度にも表われている。それは、鎖国状態にあった当時では、異国、特に中国の物が高い価値を持っていたため、当然のことであった。調度類の材質の点では、漆塗りのもの、青貝をはめこんだものなどがあり、工芸的価値のあるものが目立った。